



名古屋豆本

“NAGOYA” Miniature books

発行略歴

1967年 名古屋タイムズの社長だった亀山巖により開版。1号300部限定出版され、毎号会員配布。原稿依頼から企画・装幀、装画、発送の宛名書き、郵便局への持ち込みまで、全てこなした。
亀山氏の気に入っていた肩書は「詩人」「名古屋豆本版元」だった。

No	タイトル	作者	発行年月日
1	火と雪（詩集 火と雪）	斎藤光次郎	1967年4月15日
2	ゆうもあ 苦笑	真鶴亭	1967年5月1日
3	球状人間（エッセー 球状人間）	亀山巖	1967年6月10日
4	カシフラの笑ひ（詩集カシフラの笑ひ）	佐藤一英	1967年7月1日
5	モンキー・カレンダー	岡田孝一	1968年
6	賈作 勸進帳	柱善三	1968年1月15日
7	男と女（エッセー 男と女）	佐々基子	1968年4月15日
8	いろはにほと	後藤敬一郎	1968年3月10日
9	芭蕉名古屋秘聞（はせを秘聞）	竹田敦	1968年10月10日
10	コックカレンダー	岡田孝一	1969年
11	絵本ばらだいす	亀山巖	1969年1月1日
12	熱田三景	松尾慎三	1969年3月1日
13	尾張千石船	川合彦克	1969年10月1日
14	灯をともし	含笑長屋 近藤治一	1969年12月1日
15	Dog's Calendar 1970（ワンワン・カレンダー）	岡田孝一	1970年
16	まぼろしの郵便局	田辺卓躬	1970年1月25日
18	漬けものの神様	佐竹三郎	1970年6月6日
19	西洋豆本	今井田勲	1970年12月1日
20	CARENDAR'71（いのしし・カレンダー）	岡田孝一	1971年
21	毛信	殿岡辰雄	1971年2月10日
22	喋々喋々四畳半	柱善三	1971年9月30日
23	山車からくり	犬飼勇	1972年1月20日
24	かんしょノート（関所ノート）	牧野不二夫	1972年2月1日
25	CARENDAR 1972（マウス・カレンダー）	岡田孝一	1972年
26	川の家	黒部節子	1972年1月15日
27	酒井深覚え書	古田鼎生	1972年2月1日
28	伝奇名古屋城 大隧道	松尾慎三	1972年9月15日
29	荒川ふく小傳	寺田栄一	1972年5月26日
30	昭和四十八年うしの暦（モウモウ・カレンダー）	岡田孝一	1973年

31	ああサーカス	井口正天	1973年4月15日
32	不木・乱歩・私	岡戸武平	1974年7月7日
33	アンナプルナ紀行	伊藤洋平	1973年5月5日
34	山頭火名古屋地図	木下信三	1973年8月8日
35	虎ごよみ	1974（虎ごよみ）	
35	蓬萊楊貴妃	岡田孝一	1974年
36	今昔名古屋旭廓	真鶴亭	1974年3月3日
37	濃南華抄	斎藤光次郎	1974年8月15日
38	珈琲落穂集	殿岡辰雄	1974年1月15日
39	御暦1975（ラビット・カレンダー）	寺下辰夫	1974年10月10日
41	春韻秋律（詩詠集 春韻秋律）	門田ゆたか	1975年2月11日
42	猿氏サハラに行く	真島達三	1975年3月10日
43	豊竹呂昇 写真帖	松尾慎三	1975年10月4日
44	月の出る町	春山行夫	1975年11月1日
45	一九七六年どらごんカレンダー（どらごん・カレンダー）		
46	ガラスの彼女	斎藤吾朗	1976年5月15日
47	山頭火中央道追跡	木下信三	1976年7月15日
48	鞭と拳銃	田辺卓躬	1976年10月15日
49	ボンボン時計	井上信夫	1976年11月10日
50	名古屋豆本蛇暦（セルパン・カレンダー）	岡田孝一	1905年5月21
51	詩的巡礼巴里五人女	三宅瑞穂	1977年2月20日
52	手風琴の本	尾上隆治	1977年6月10日
53	大錠紋太郎傳	橋本健三	1977年7月1日
54	山頭火奥州人情	木下信三	1977年11月15日
56	グレート天海開書	石田天海	1978年3月15日
57	艶庵句集	杉浦冷石	1978年4月8日
58	山頭火故里残景	木下信三	1978年6月15日
59	巴里の大駅	三宅瑞穂	1978年12月15日

参考／名古屋豆本、碧南市民図書館、
『亀山巖のまなざし 雑学の粋人モダニスト』木下信三 2020 年風媒社

“NAGOYA” Miniature books (1967– 1987)

This 7cm x 10cm hobby book was published by Iwao Kameyama, the president of Nagoya Times. Only 300 copies were distributed to members. Authors include Yukio Haruyama, Ichiei Sato, Fujio Makino, Buhei Okado, Goro Saito, and Kansuke Yamamoto. Surrealist photographer Kansuke Yamamoto's only published work is this book, making it highly valuable.

ジャンル / 名古屋発文芸

Literary works originating in Nagoya

名古屋市収蔵の資料

／“名古屋豆本”

(一部掲載；収蔵先 文化のみち二葉館)

Collection related to “NAGOYA” Miniature books in Nagoya City. Storage location: Cultural Path Futaba Museum, City of Nagoya.



←本体豆本の内容に合わせ、付録としてカセット音源がついているものもあった。

(『弾き語り富士松春太夫』木下信三・著)



←付録カレンダー。

「名古屋豆本」会員に年末に配られたもの。特に作者名のない年のものは、亀山巖氏の版絵になる。サイズは約6センチ×8センチ程度。



←出来上がった豆本を入れるように作られた袋。これらも亀山氏のデザインとペン画・切り絵が元になっている。この袋に入って会員の元に郵送されていた。

上記資料の閲覧を希望される方は、[文化芸術推進課](#)または[文化のみち二葉館](#)までお問い合わせください。
なお、学術研究または教育普及目的の場合にのみ閲覧が可能で、所定の手続きが必要です。